

## 下原地区意見交換会（12/2） 意見概要

日時：平成30年12月2日（日）10:00～11:20

場所：西公民館2階会議室

参加：34名

### ■次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 一級河川高梁川等の被害概要及び復旧について（建設部説明）
  - (2) 市道等の災害復旧工事の予定について（建設部説明）
  - (3) 「総社市復興ビジョン」概要説明について  
基本方針と策定スケジュール等
- 4 意見交換
- 5 閉会

### ■意見概要（○：住民意見，⇒：市長・事務局回答）

- 下原地区では、40世帯程度が家を再建する予定であるが、仮設住宅の期限が原則2年と限られており延長できるようにしてほしい。
- 家賃の補助について、2年後も可能なのか。  
⇒2年後の住む場所をどのように確保していくかは、喫緊の課題であると認識している。  
その中で、現在利用していただいている仮設住宅については、復興住宅として恒久的に利用してもらえるような検討もしており、復興ビジョンに盛り込みたいと考えている。
- ⇒原則2年という仮設住宅のルールがあり、家賃の補助についてどの程度行えるか現時点では明確ではないが、市として限りなく現状と近いカタチで支援していきたいと考えている。
- 開発行為の規制緩和についても検討してほしい。下原地区では、宍粟真備線周辺を災害特区に指定し、緩和するなど。現在110戸程度が住んでいるが、これからもっと減ることが予想される。将来にわたって地域を維持するためにも、若い人が入ってこられる基盤整備を整えたい。
- ⇒開発行為の規制緩和について、復興ビジョンに盛り込みたい。
- 道路の拡幅にあたって、建て直す際に土地のセットバックを行い、用地提供する。ま

た、塀の解体についても市で行ってもらえる。このことはよいが、塀の復旧についても市で対応いただかないと拡幅は難しい。

⇒特区の件と合わせて工夫したい。

○高梁川などの樹木を伐採しているとのことだが、新本川と高梁川の合流点にも樹木が繁茂している。できれば、そちらも伐採してほしい。

⇒新本川についても樹木が繁茂している状況は認識している。伐採について、単年度での実施は難しいが、前向きに検討していきたい。

⇒小田川は概ね伐採は完了しており、再繁茂の防止にむけて公園整備なども含めて検討していきたい。

○今回の水没は小田川の決壊によるもので、床上1 m前後の被害であった。家を再建する際には、土地を嵩上げして床上まで浸水しないようにしたいと考えている。嵩上げを行う際の補助はできないか。

⇒土地の嵩上げに対する補助について、今後検討したい。

○避難生活において別の地域で暮らしたが、生活に制限があり、生きがいとなるものもなかったため、被災した家屋を一部屋復旧しすぐに帰ってきた。復興事務所を中心に、催しものを実施してもらっており、コミュニケーションの場としてとてもありがたい。復興にあたっては、道路や環境整備は当然ながら、精神的な面での支援や復興も重要である。個人的には、来年の5/12～16の期間、被災した自宅で墨彩画展を行いたいと考えている。

⇒地区のみんなも元気になると思うので、墨彩画をぜひやりましょう。

⇒普段から子供たちに指導されておられると思います。文化的な面で、みんなの心の支えになると思うので応援していきたい。

○現在、自費解体で再建を進めているが、地区全体で土地を嵩上げすることはないのか。

○早く帰ってきたいため自力で再建を進めているが、嵩上げを行おうとすると開発許可が必要だと言われ、思うように進まない状況にある。下原地区は高齢者が多く、地域外での生活は精神的な面でも疲弊するため、できるだけ早く帰ってきたいと思っている。しかし、現状では自力再建には様々な障害があるため、早く帰ってくるのが難しい。下原地区全体のことを考え、いろんなことを早く進めてほしい。

⇒現在ある家を解体するための助成を進めている。地区全体の嵩上げをする財政的な問題もあり、難しいため個別での対応になるかと思う。

○高梁川の堤防で、豪雨の際に決壊はしなかったが穴が開いて水が出ていた。よく見て

もらって管理してほしい。

⇒豪雨の後、堤防については緊急点検を実施しており、危険箇所については把握している。来年の出水期までには復旧する予定である。

○小田川の合流点の付け替えで、水位はどの程度下がるのか。

⇒洪水の規模にもよるが、150年確率の洪水で最大5m程度下がる予想である。

○公費解体のスケジュールと今後の見舞金について教えてほしい。

⇒見舞金については、これまで配布してきた。最終的なものは総額などをみて相談していきたい。

⇒公費解体について、12月中旬に工事業者が決まる。その後、解体を順次実施していき、来年の夏までに全戸解体を予定している。

## 昭和地区意見交換会（12/2） 意見概要

日時：平成30年12月2日（日）14：00～16：30

場所：昭和公民館3階大会議室

参加：50名

### ■意見概要（○：住民意見，⇒：市長・事務局回答）

○町内で十数世帯が現在も避難しており，その中には子育て世代の世帯もあり，児童手当等の上乗せを検討してほしい。

⇒災害特区として，どのようなメニューがあるか検討する。

○国道180号において，S字となっている区間を直線に線形改良するとともに，嵩上げをしてほしい。

⇒嵩上げの話は，国土交通省の道路部局へ市から相談していきたい。

⇒河道掘削，樹木伐採等，維持管理に加え改修という意味でも前倒しできないか等検討していく。

○伐採の件で，堤防に猪が出てきて，国道の法面をえぐっている。対策を検討してほしい。

○水門の管理について，早急に管理手順書を作成してほしい。

○排水路の工事において，移動式ポンプを考えてほしい。

○堤防には，逆流防止弁が付いていて，区長が管理を行っている。用水路が詰まることがあるので，今後の管理について検討してほしい。

○後の管理を市のほうで行ってほしい。

○水位計について，すぐに計測不能となる。美袋に水位計を新設してほしい。

○避難所にテレビが無く，情報が入ってこないので，学校等の避難所にテレビを設置してほしい。

⇒移動式ポンプについては，移動式ポンプを設置することで，浸水が解決できるのかどうかを含めて検討する。

⇒日羽の水位計が13.4mを超えると計測不能になる。我々としても不安であり，それ以上の水位になっても計測できる水位計の設置をお願いしていく。

⇒避難所については，現在ハザードマップを修正している。また，日羽の避難所や草田の避難所についても，浸水の恐れが高いことから，変更していく。

⇒テレビの設置については，気を付けて対応する。

⇒樋門（水門）の管理手順書については，作成する。

⇒堤防の管理について，猪等の被害に関して，詳しい話を聞きながら対応できるところは対応していく。

⇒逆流防止弁について、1か所詰まっているものがあった。該当箇所は掘削等を行っていく。

⇒水位計については、検討していく。

○内水被害軽減のため、生活用水路の改善を実施してほしい。

○川底の管理について、堆積物を取り除くべきである。

○昭和47に3日で800mmの降水があったが、越水しなかった。現在がそれより少ない降雨でも越水する。河床が堆積物等によって上昇している。

○美袋住宅が取り壊しになると聞いているが、その後どうなるのか。

⇒美袋住宅については、取り壊す。その後の対応については、早急に案を考える。

○商店等の店舗が今回の災害を期に撤退したところもある。買い物等、不便になり、人が流出することが懸念される。人がいなくなったら、復興にならないので、店舗を誘致してほしい。

⇒心当たりがあるので、相談する。

○小学校において、大雨警報時の対応について明確にしてほしい。

⇒泉団地にある北小学校は住家のある団地より低い位置にあり、避難所に指定されているが、住家より低い避難所には誰も避難しない。このように見直すべき避難所が市内にあるため、全体で避難所を再考していく。

⇒文部科学省からマニュアルが出ている。現在、市としても先生の役割等を含めたマニュアルを見直している。

○災害が起こった理由について、時系列で知りたい。

○被災し、生活が大変な時期に、子どもの弁当持参するよう学校から依頼があった。このようなことがないように、被災者のケアを含めたフォローをお願いしたい。

○水害を経験したことがないため、持ち出し品や備蓄について分からないことが多い。市として示してほしい。

○誰にでも情報が得られるようにしてほしい。

⇒持ち出し品や備蓄について、救命ボートの必要性を感じた。また、スマートフォンのバッテリーについても必要である。

⇒被害の経緯について、7月6日10:00に避難準備・高齢者等避難開始が発令された。同18:30累計雨量が150mmを超え日羽の水位計が7.61m、ダムの放流量が1543ト、19:00に水位計8.95m、20:00に9.55m、放流量2546ト、21:00に10.77m、放流量2926トとなり、このころから作原地区で浸水が始まった。21:30に市全域に避難勧告、21:35に大雨特別警報が発表された。7月7日0:30に水位が13.12mとなり、その後計測不

能となった。同 1:00 頃から水位は下降を始めた。

○以前は川から砂利が取れたため、業者が入り、堆積物を取っていたが、現在は放置されている。異常堆積をキレイにしてほしい。

○竹藪や樹木を伐採してほしい。

⇒国や県に要望する。

○ポンプは移動式でないきちんとしたポンプ場を整備してほしい。

○地域づくり協議会の下部組織として自主防災組織がある。市が地域に丸投げしている状況である。

○「こくっち」の購入に対して、市が補助をほしてほしい。

⇒自主防災組織の活動について、市が補助を出している。

○東日本大震災時の「釜石の奇跡」と呼ばれている事案があった。日ごろからの防災訓練等を行っていた中学生が当時迅速に避難、避難誘導できたというもので、昭和地区でも同じように若い力を活用してほしい。

⇒被災訓練を含めて考えたい。

○自分たちにできることは、自分たちでやり、できないことは、市にお願いするということを考えないといけない。

○堤防を嵩上げするとあるが、嵩上げすることで、越水までどの程度の余裕ができるのか。

○県や国も単なるオブザーバではなく、意見を持ち帰って内部で検討していただき、実現に向けて動いてほしい。

⇒平成 30 年 7 月豪雨と同程度の降雨でも越水しない高さとする。

⇒最高水位箇所を記録に留めて後の参考にする。越水しない基準値として把握しておく。さらに精度を高めて、どのくらいまで耐えうるのかを知っておくべきだと思う。

⇒今回の災害では、翌日から中高生のボランティアが参加した。

## 下原地区意見交換会（12/9） 意見概要

日時：平成 30 年 12 月 9 日（日）10:00～11:30

場所：総社市西公民館 2 階会議室

参加：31 名

### ■意見概要（○：住民意見，⇒：市長・事務局回答）

- 土木の担当者に伝えて見て頂いたが、イチョウの木の下側の土手に漏水がある。明治の時代にも決壊していると聞いている。矢板等による早急な対策をお願いしたい。  
⇒県にて、改めて現況を確認し、対応していきたい。
- 上原井領用水に沿った所、イチョウの木から公会堂にかけての市道は、伏流水により年に3箇所ぐらい穴があく。通学路でもあり、良い案があれば対策をお願いしたい。  
⇒毎日点検をしているところで、つついて穴があく所には碎石を充填している。また異常があれば連絡いただきたい。
- 砂古地区は、大きな被害のあった下原の北側にあたるが、少なくとも20軒の床上・床下の浸水が起こっている。原因として、高梁川の水位が上がると支川の逆流が発生するため、浸水が起こる。解決策として水門を設けて逆流を防ぐことやポンプの整備が必要である。応急的には高梁川の樹木の伐採も必要。同じことが今後も必ず起こると思うので、強くお願いしたい。  
⇒水門やポンプの設置、浚渫、伐木などの対策を推進していきたい。また、今回の豪雨のピーク時には毎秒3,770トンの水がダムから放流され、そのことを後で知った。市長の責任として、上流のダムの操作に関する話し合いをしたいと言ってきており、適切な放流を行うための会議を12月14日に持つことになった。高梁川の流量を是正するものにしたいと思っている。
- 砂古に自宅、下原に実家があり、両方が被害にあった。下原の方は色々よくしてもらっている。前回も出席したが、砂古地区の話は出なかったのが今回出席した。誰もが安心して住みたいと思う気持ちは同じで、地区への愛着があるが、今の堤防の高さで大丈夫か心配である。砂古地区は少人数であるが、忘れずに対策をお願いしたい。  
⇒昭和地区でもお叱りを受けたところであり、砂古地区のこともよく見て対策していきたい。申し訳なく思っている。
- 義援金について、市のHPをみると支援金の公表しかない。他の市町村を見ると義援金として集められている。県から今まで出された5次の義援金は、実際に我々が受け取っているものと違いがある。問い合わせると、市の決定が出ていないのでいつになるか分からないということであった。市の対応が遅いのではないか。また、市民税の減免について、総社市では建物に対してのみである。岡山市、倉敷市などでは、家財を含めて減免をしている。娘が真備に勤めており、真備に住んでいる人には市民税の

減免の通知があったそうだが、娘にはない。市にたずねると、総社市では減免をやっていないということ。わからないことが多いので、見える化をお願いしたい。

⇒総社市では義援金、支援金とも最速で配ってきた。どこかで貯めて使おうというものではなく、皆さんに配っている。今後、出来るだけ詳細に義援金・支援金などの見える化を行っていきたいと思う。

⇒税の減免については、倉敷市にも確認した上で、個別に説明させて頂く。

○今回の経験を財産として後世に残してほしい。キーワードとして災害に強いまち、防災を学べるまちなど、総社流としてまとめて、国への提言や観光資源にも生かせるようにしてほしい。もう1つ、スポーツの場所がなく苦勞しており、河川敷のグラウンドの復旧を急いでほしい。

⇒記憶にとどめること、検証をして後世に語り継いでいくことを行っていきたい。総社モデル、特に下原モデルとして、防災活動のあり方を伝えていくべきと思う。

⇒河川敷のグラウンドは、仮復旧ではなく来年6月までの完全復旧を目指して対応している。

○今回の説明会の議事録はどうなるのか。また、説明会開催などの情報は自分で取りに行かないと入って来ないので対応をお願いしたい。

⇒議事録は皆さんに見て頂けるようHPに掲載する。情報発信については、色々やっているつもりであるが、今後も気をつけたい。

○地区の代表として、市の素早く適切な対応に感謝している。情報伝達の手段は色々あるが、災害時は生の声の伝達が最も重要だった。今後の防災には人の繋がりが大事だと思う。

○災害と直接の関わりではないが、下原地区では子どもの数が少なくなっている。少子高齢化対策も考える必要がある。

⇒ご意見ありがとうございます。

○地すべりが複数箇所が発生しており、民地であるため公費はもらえないが、多額の費用が必要であり、何か良い方法は無いか。また、地区内の県道に工事車両が多く、自転車通学の人困っている。県道の土手から下がる道を拓げてほしい。

⇒民民被害については市では手をつけにくい。心が痛い、ご理解いただきたい。

⇒県道については、市の要望もあり、バイパスによる整備を事業化している。地元調整が出来れば、工事に着手する。頂いたご意見も参考に、少しでも通りやすい道路を整備したいと思うのでご協力をお願いしたい。

## 昭和地区意見交換会（12/9） 意見概要

日時：平成30年12月9日（日）14：00～16：00

場所：昭和公民館3階会議室

参加：54名

### ■意見概要（○：住民意見，⇒：市長・事務局回答）

○槻地区に住んでいるが、高岸寺の下の道、農道と思うが、被害を受けた。土木委員を通じて市に復旧を要望し、1～2箇所は直して頂いたが、その他は重機が通らないから難しいといわれた。優先順位があると思うが、小さい重機で対応できないか。

⇒失礼なところがあった。一つ一つを把握していないので、明日返事をさせて頂く。申し訳ない。

○復旧は、道路が一番だと思う。金網を使うと効果が高いのではないか。土手に向かう道で、崩れそうなところがあるのでそれも直してもらいたい。また、土手の復旧と一緒に、圃場整備をしてはどうか。水門は手動でなく電動のものにできないか。

⇒金網を使っているのは、滝の端～草田本線のことかと思う。民地が含まれており、難しい面もあるが、出来るだけ対応していきたい。排水樋門については、電動のものは整備に時間がかかり、故障する場合もある。今回の災害でも手動の方が適切に対応できていた例がある。すぐの対応は難しいが、今後新たに必要となる水門については考えていきたい。

⇒圃場整備については、事業費や地域の負担のこともあるので、土地の所有者と相談させて頂きたい。

○後日、復興ビジョンの委員会があるとのことだが、本日以外に意見を出す機会はあるか。また、委員会のメンバーを教えてください。

⇒議会との都合もあり、来年度の予算に盛り込めるよう、道の改修などのビジョンを年内に書き上げようとしているところである。ただし、ビジョンは骨格を決めるものであり、細かいところまでは書かない。今後も意見は随時受け付ける。委員会メンバーは10名で、昭和地区や下原地区の代表者や、コミュニティ協議会、商工会議所、県立大学、地方創生に関係する民間事業者などに入ってもらっている。

⇒復興ビジョンの委員会の他に、昭和地区の復興委員会もある。各地区から地元の委員に出て頂いているので、ご意見があればその方にお伝え頂ければと思う。

○日羽・福谷の無堤防地区について、詳しい整備計画があれば知りたい。

⇒11月28日に河川災害復旧等関連緊急事業が決定され、これから堤防の設計を進めていく。地元と相談しながら進めていくのでご協力をお願いしたい。

○写真を見ると、草田地区の堤防が直されて、2mくらい高くなる。作原地区には今まで以上に水がたまるようにならないか。

⇒草田地区は堤防の高さを1.4m程度上げる工事を行う。作原地区への影響は無いと考えている。

○昨年8月、県民局に対して1/3しか活用されていない川岸の整備を要望した。整備が行われていれば、少なくともさくばらホームまでは浸水しなかったのではないか。一級河川らしく土砂の撤去などを行うべきではないか。今回の災害で総社市はいち早く動いてくれたが、河川の整備なしに復旧は進まない。作原地区からは撤退しようという人が多く出ており、県が先導して川をきれいにしていきたい。

⇒決壊した堤防を一刻も早く復旧し、今回と同等の雨が降っても大丈夫なように取り組んでいるところ。また、上流下流への影響も考えていかなければならない。河川全体としてどのように整備するか、河川整備計画の見直しも含めて検討していきたい。

⇒作原地区に何かをするという計画は今のところ無いが、これで良いのかという思いがある。県知事や国に対しても、要望していきたい。美袋や日羽の180号線かさ上げについても、我々が言っていかなければならない。

○41億円の予算がついたが、河床の掘削は含まれているか。

⇒詳細についてはこれから決定するが、築堤や堤防のかさ上げが入っており、掘削は含まれていない。

○堤防補強がされる中で、作原への影響を少なくするには河床を掘ることが早いと思うので、ぜひ要望していきたい。

⇒市としてしっかり要望していく。先日の台風25号では1日97mmの雨で作原地区は浸水しそうになっていた。小田川も危険で避難指示を出した。河床が関係あると思う。

○台風25号では、コンビニが浸水した。雨が止んだ後も水位が上がっていたが、ダムが放流が関係していると聞いた。天気予報に応じて、前もって放流することは出来ないか。

⇒ダム会議を開きたいということは知事とも話している。7割が中電管理のダムであり、3割が県管理である。周辺市町の首長や中電、国交省との会談を呼びかけ、12月14日に代表者会議を行うことになった。責任の追及ではなく、住民を守るための新しいルール作りをしようと考えている。河川法の中に、河川管理者はダム管理者に対して放流の指示が出来ることとなっているが、実際には執行されたことは無い。豪雨のピーク時、日羽の水位が計測不能になった時にもダムから毎秒3,770トンが放流されていた。このことを事後に知った。ダムを放流する中電と県で、横の連絡もない。喧嘩するつもりは無いが、市として言うことを言って、お互い納得できる形にしたい。

○日羽の避難所は5箇所あるが、入れるのは1箇所しかなく、入れる人数も限られている。重度の障がい者を持つ親としては、避難所で大変な思いをしたこともあり、連れて行くこともどうしようかと考える。親子で過ごせるよう、小さな部屋があると助かる。

⇒障がい者が入れる避難所は重要なことである。これから避難所を作る時には留意した

い。

○種井地区は小学校が避難所になっているが、豪雨時には通行止めで行けない。生活改善センターを避難所にするように頼んだ。豪雨時に3日間暮らした人もおり、種井集会所を避難所として公にしてもらいたい。

⇒集会所については、そのように考えていきたい。他の地区にも、適切でないと思われる避難所があり、改善していく必要があると考える。

○草田地区で毎年1～2回は浸水する場所に住んでいる。内水への対策はどのように考えられているか。

⇒高梁川沿いには、同様の箇所がたくさんある。順次、計画を考えていきたい。

○草田地区の生活道路が低いところにあり、よく浸水する。かさ上げが可能かどうか分からないが、改善を考えられないか。

⇒堤防を直すところは道路が1.4m上がる。草田と福谷の間、集落の無い部分は、従来から浸水道路という位置付けになっているが、今回の豪雨では路面から5m浸水している。崖に面していることもあり、費用面と地形から改善は難しく、通行止めに対応せざるを得ないのが本音である。

○昭和小学校と昭和幼稚園が浸水した。地震と火災の避難訓練はしているが水害の時の訓練はしていないと聞いたが、そうなのか。

⇒文科省が今年に入ってルールの見直しをしている。中学校区ごとに行う方針で作業中である。

○避難場所に問題は無いのか。小学校の体育館には2階があるが、物資が何も無く、水道も使えなかった。改修して、子どもたちが安全に避難できるようにして頂きたい。また、美袋にも内水排除のポンプを設置して頂きたい。

⇒昼間と夜間の使い分けや、避難場所がそこでよいのかも含めて、検討したい。

⇒排水ポンプの必要性は認識しており、すぐには難しい状況であるが、河川改修と並行して考えていきたい。

○仮設ポンプでも良いので設置して頂きたい。

⇒検討はするが、大きなポンプが必要なレベルであり、根本的な解決に向けて考えた方が良いと思うので、理解頂きたい。

○岡山市では仮設ポンプを設置するという報道があったと思うが、同じようなものは出来ないのか。

⇒そのことを認識していないので、勉強したい。

○復興ビジョンに高梁川の浚渫が入っているが、槻谷川の浚渫も組み込んで頂きたい。

⇒要望を多く受けており、この場で全てを把握していないので、明日、土木担当から返事したい。

○復旧ではなく復興ということで期待している。復興ビジョンは、物理的なものなのか精神的なものも含むのか。また、国・県が進めるものも含むのか。ビジョンは構想的

なものと思うが、次に策定する復興計画の中では個別の地区や事業を特定したものが含まれるのか。

⇒復興ビジョンには、ソフトの部分を含め、工事的なものや仕組み的なものを入れる。国・県と協力して行うものについても入れる可能性があるが、基本的には市の考え、市の単独予算で行うものにする。復興の上で必要な箇所について、協議の上で個別に盛り込むことにもなると思う。店舗の誘致など、夢・希望のあるものをビジョンとして描いていきたい。

○情報発信の方法について、今回はテレビが有効だったが停電になると使えない。市のメールは、登録していないと届かない。市町村によっては防災無線を設置しているが、どのような形が一番良いのかを検討して頂きたい。ダム放流の情報についても、発信方法を考えて頂きたい。日羽の観測所は途中で観測不能となっており、観測容量の改善をお願いしたい。また、さくばらホームについても、働き場所として、老人の入居先として、代わりとなる施設の誘致を考えて頂きたい。

⇒老人ホームについては、詳細はこれからである。さくばらホームの建物がどうなるかも気になっており、作原地区の今後のためにも、市としても問題意識を持っている。

⇒情報発信の方法はいくつか使っているが、それぞれ長所短所がある。たくさんの網をかけて、出来るだけ皆さんにもれなく伝わるように、方法を増やしていきたい。

⇒ダムの情報発信については、担当に伝えて検討したい。

⇒日羽の観測所は、きちんと計測して皆さんに伝えることが出来るよう、対策を検討しているところである。

○繰り返しになると思うが、日羽地区にはちゃんとした堤防や避難所が無いので、改めて前向きな検討をお願いしたい。

⇒分かりました。

○職員は疲れていると思う。落ち着いたら、交代で休養を与えてはどうか。

⇒交代で休むようにしたい。ありがとうございます。